

## 教科 【商業】 ICTを活用した授業展開について

### ○「MetaMoji ClassRoom」の活用について

#### 【MetaMoji を反転授業に活用】

- ・MetaMoji を活用し、授業の單元ごとにデジタル教材を事前に配布。授業外にて生徒が教材活用し基礎知識を学んだあとに、授業において知識の定着や理解の深まりを目指します。

商業科目のデジタル教材は他教科に比べると充実度は低いです。少しずつ各出版社から準備されてきております。特に事前配布に「授業展開スライド」を用いることでポイントを絞った学習が可能です。授業ではそのまま「授業展開スライド」や「対応プリント」を用いて知識の定着や理解の深まりを協働学習なども活用しながら目指します。

#### <授 業 外>



#### <授 業>



画像出典：「実教出版」「いらすとや」

#### <期待できる成果>

- ・授業時間に余裕が生まれるため、効率的な知識習得が可能。知識をアウトプットする機会が増えることや協働的な学習が可能で問題解決能力の育成につながります。教員側からも生徒の理解度を細かく確認できるという利点があげられます。

#### <課題>

- ・それぞれの学校によりタブレット端末の貸出環境が異なると思われます。自宅や放課後等での利用を想定した学校や校内の授業のみの利用という学校もあると思われます。授業外における MetaMoji 利用の環境整備が必要になります。
- ・授業外での学習時間の確保が負担となる生徒や、自発的な学習が必要なため学習意欲が低い生徒への家庭学習の取組状況の改善支援が必要となってきます。

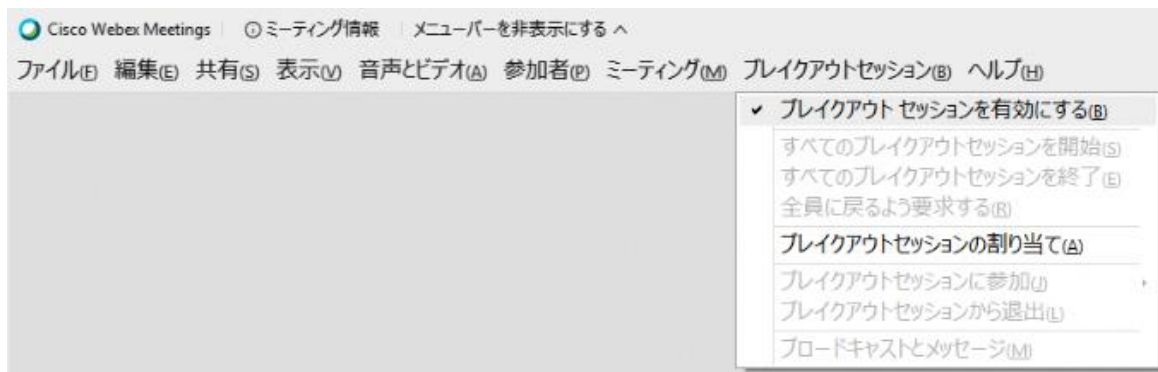
#### 【MetaMoji でペーパーレス化】

- ・MetaMoji を活用してペーパーレス化に応用が可能です。特に全商検定等の過去問題は Web 上に pdf 形式でアップされており、そのまま MetaMoji での配布が可能です。多くの印刷物に時間を要することなくタブレット端末を見ながらプリントへの解答や直接端末への解答も可能であり、利便性は高いと考えます。また、データを保存しておくことで問題の収納や紛失のデメリットも回避でき、振り返りなどの学習にも活用できます。

## ○「Cisco Webex Meetings」の活用について

### 【Cisco Webex Meetings のブレイクアウトセッションの活用】

- ・ Cisco Webex Meetings のブレイクアウトセッションを活用して授業での協働学習に応用できます。新型コロナウイルスの感染防止対策として対面でのコミュニケーションが控えられておりますが、オンライン学習を教室内でも利用することで協働学習につなげ、同時に MetaMoji を活用し、配布教材への書き込みや協働作成などの応用で通常と同様のディスカッションをオンライン上で行うことができます。ブレイクアウトセッションは、グループ数や参加者を主催者側が割り当てを設定することで、教員側の意図により生徒の授業参加が可能です。



### <課題>

- ・ タブレット端末内での操作を多く使うことになり、ある程度生徒の操作理解が必要となります。また、データ通信量が多くなるため、現在の学校間総合ネットのトラフィックを見るとインターネット回線がひっ迫しており、通信途中での不具合が考えられます。
- ・ 教室内での学習を想定した場合、音声の聞き取りにくさやハウリングを防ぐため、生徒が各自でイヤフォンを用意する必要があります。安価な物や別機器の付属の物でも問題ないと思われれます。

### 【Cisco Webex Meetings を活用した外部人材の活用】

- ・ 従来でも外部人材を活用した専門知識の学びや地域連携活動は多く行われておりますが、リモートでの社会活動が浸透してきた現在だからこそ Cisco Webex Meetings 等を活用してよりオンラインでの外部人材を活用した活動が行えると思われれます。設定や準備環境が双方で容易になることで、授業や特別活動での利用を多く検討でき、また産業教育の学びの視点からも現地への移動が無くとも施設や設備などの見学も可能となり実社会との関わりを深くできると考えます。

## ○「Microsoft Forms」の活用について

### 【Microsoft Forms を活用した観点別評価】

・令和4年度から新学習指導要領に対応した学習評価として観点別評価が必要となります。学習評価とは「学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するもの」であり、「生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められています。ここにある「生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうこと」という点から生徒自身が自己評価を行うツールとして Microsoft Forms が活用できると思われれます。

特に3観点の中でも「主体的に学習に取り組む態度」は評価の集約に手間と時間が必要となります。この評価については、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組を行おう」とする側面と、「その粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しよう」とする側面、という2つの側面からの評価が必要となります。

【粘り強い取組を行おうとする側面】



【自らの学習を調整しようとする側面】

具体的な評価方法として、単元ごとに生徒が学習目標を設定し、自分なりの学び方で学習に取組、振り返る機会を設け、「自己評価」として生徒の学習状況を教員側が知ることによって評価を行う際の考慮する材料の一つとして用いることができます。

・「生徒の学習目標を設定」では単元の最初に教員側により5つほどの例示をし、生徒が自らどの目標を設定するのか選択。単元ごとに2つの側面を意識した目標で、模範的なものから最低限の目標内容で選択させ主体的な活動状況の把握を図ります。

・「学習への取組状況」では単元の中で生徒の学習への取組姿勢を知ることによって、粘り強い取組を行おうとする状況、また今後自らの学習を調整しようとしているか知ることができます。

・「振り返りの機会」では単元を通じた学習を総括し、目標に応じたそれぞれの学習活動を振り返ることによって「十分に満足できる」状況から「努力を要する」状況を確認し、今後の生徒の学習活動や教員側の指導の改善につなげることができます。

Microsoft Forms の活用で生徒の学習活動状況の把握と蓄積が Excel ベースで行えます。Forms で質問は選択式や記述式などそれぞれの問いに合わせた設定が可能です。また、指定 URL をブックマーク化し共有フォルダに入れておくことで生徒全員の自己評価を個別に入力させることができます。教員側も Excel 抽出ができるためデータの分析、蓄積が行えます。また、「知識・技能」「思考・判断・表現」の学習評価にも、Forms を活用した小テストの作成による Web 試験により、生徒の学習状況の確認が可能です。

